北海道の地域と学校の連携・協働を応援する広報誌

地学協働

14
2023年11月

Hokkaido community and school collaboration

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

バックナンバーはこちらから御覧いただけます。

1 学校運営協議会に生徒が参画している事例

道教委では、地域と学校の連携・協働の一層の推進に向け各種政策に取り組んでおり、道内各地においては、学校運営協議会の設置が進められております。

今号では、学校運営協議会に生徒が参画し、議論が活発化している事例について紹介します。

渡島教育局～学校運営協議会を教育課程内で実施～

七飯町立大沼岳陽学校（義務教育学校）の学校運営協議会では、委員から出された「児童生徒の実態を知りたい」との要望を受け、９年生の**「総合的な学習の時間」において、生徒と大人が対等な目線で対話する「しゃべり場」を実施**しました。

当日は、学校運営協議会の委員はもとより、地域の議員や企業の代表、移住者など多様な大人が出席し、対話を通じて地域の生徒の実態を捉えるとともに、生徒にとっては、学校が定める「総合的な学習の時間」の目標である「自分たちの未来を考える」に迫ることができるなど、有意義な時間となりました。

地域住民からは「自分の考えを持っている子が多く尊敬した」という感想が聞かれました。また、生徒の一人は「大人とじっくり話す機会は初めてだったが、もっと話したいと思えるほどあっという間だった」と笑顔で話しました。大橋校長は「住民と生徒が積極的に関わる機会を増やすことで、互いに地域に対する愛着が生まれやすいのではないか」と話していました。

【生徒と地域住民が対話】

日高教育局～中学校の卒業生（高校生）が学校運営協議会に参画～

様似町では、学校運営協議会において、幼児教育から中学校までの教育について協議しています。学校運営協議会委員の中には、浦河高校へ通う様似町出身の生徒２名がいます。

高校生委員の取組は、平成30年からスタートしています。**現役の高校生が学校運営協議会の委員となっている市町村は、道内でほかに見られません。**高校生ならではの意見により、議論も活発に行われています。

２名の高校生委員からは、「以前は町のことを考えることはなかったが、様似町について考えるきっかけになった」、「小・中学校の学習状況を知り、自身のことを振り返りました」等の感想が聞かれるなど、**学校運営協議会の委員を務めていることが、様似町の教育のことを知り、考える貴重な経験**となっています。

【高校生が学校運営協議会委員に】

☆「北海道地学協働アワード2023」の申込みは12月１日（金）まで☆
⇒たくさんのエントリーをお待ちしております

2　第２回放課後活動推進協議会（道東会場）

開催日：令和５年（2023年）10月19日（木）　　主管：十勝教育局
参加者：288名

放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々を対象に、放課後活動を支える人材の資質向上を図ることを目的とし、子どもへの活動支援の在り方について、専門的な講義や協議を会場とオンラインのハイブリッドで実施しました。

1　講　義「子どもの育ちを支える発達心理学」
講　師　帯広大谷短期大学　　教授　　滝澤　真毅　氏

子どもの育ちを支える発達心理学について、
①安心感…愛着の発達
②対人関係…集団生活とルール、思いやりと寛容
の２点が重要であると説明がありました。

愛着の発達については、子どもにとって安心・安全が確保されることが大切であり、そのために**「安心して関われる人がいる」と子どもが思えるような関わりが大切**であることが分かりました。

また、集団生活のルールづくりのポイントとしては、**子どもと一緒にルールを決めていく**ことが挙げられました。また、ルールを守ることができない子どもに対しての関わり方のポイントとして、**適切な行動を示し、ルールを守ることができた場合に認める**ことが必要であることが分かりました。

思いやりと寛容については、**互いの主張を出し合い、交渉しながら主張の方法を学ぶ**ことが重要であるとの説明がありました。

【滝澤　真毅　氏】

2　協　議
進　行　十勝教育局教育支援課社会教育指導班社会教育主事　皆川　敬太

参加者が４人１組のグループをつくり、講師の滝澤教授より示された事例に対して会場・オンラインの双方で、２つのテーマについて協議を行いました。

１つ目のテーマ「児童に安心感を与えられる関わりについて」では、子どもを守り育てる役割を果たすための技術、かけがえのなさを伴う関係性に近付くための姿勢の２つの視点で、協議が行われました。

２つ目のテーマ「集団生活でのルールやマナーの伝え方について」では、伝えるための技術、伝わるような関係性の２つの視点で協議が行われました。

協議を通して、**「子どもの話を傾聴することで不安を取り除いたり、寄り添ったりして安心してもらうことが大切。その積み重ねで信頼関係が築き上げられる」**などの意見が出ました。

【協議の様子】

参加者の声

●子どもの対人関係をより良くするには「安心感」を感じてもらうことが大切で、その方法も子どもに応じて変わっていくことを再確認することができました。
●集団生活でのルールやマナーの伝え方について、伝わるための技術や関係性を築くために、各機関でいろいろなやり方があることを学ぶことができました。

第２回放課後活動推進協議会（道北会場）

開催日：令和５年（2023年）10月12日（木）　　主管：留萌教育局
参加者：173名

放課後や休日などにおける子どもの活動拠点づくりに関わる方々を対象に、放課後活動を支える人材の資質向上を図ることを目的とし、子どもへの活動支援の在り方について、専門的な講義や演習等をオンラインで実施しました。

１　講　義　「子どもからのSOSを見逃さない関わり」

講　師　北海道旭川児童相談所　地域支援課長　阿波加　忠純　氏

子どもの行動の変化には何か理由があるという認識のもと、SOSを見逃さないために、どのようなことに留意する必要があるか、自傷行為の事例から学びました。

子どもの変化を見逃さないためには、
・何か違うという直感を大切にする
・気づいたことについて記録をつけておく
・子どもの行動の「背後にある理由」を考える
相談を受けたときには、
・否定やアドバイスをせず相手の話を受け止める
・一人で抱え込まずに誰にパスをつなぐことが適切か考える
などといった、すぐに行動できる関わり方のポイントを学ぶことができました。

【阿波加　忠純　氏】

２　演　習　「子どものやる気、どこからやって来る？ 今日から実践できる言葉かけ」

講　師　一般社団法人トラストコーチング　認定シニアコーチ　八十嶋　聡子　氏

それぞれの考えをチャットでの発言や、グループに分かれて話し合いをするなど、参加者同士のコミュニケーションを通し、子どものやる気を引き出す関わり方や、言葉かけについて考えることができました。

コーチングの唯一のルールは**「アドバイスをしない」**
・自分で決める経験は、自己肯定感を高める要素となる
・「大人に言われたから」ではなく「自分で何かを決定しよう」という力を伸ばすためには、アドバイス（ティーチング）だけでなく、コーチングの関わり方が有効である
・学校でコーチングを受け、授業後「気分が上がったりやる気が出たりした」と回答した子どもの多くは、理由として、「自分の思いを話せたこと」、「自分のことを知ってもらえたこと」を感じている
・コミュニケーションは「非言語（視覚、聴覚）」の情報が伝わりやすく、「言語」で伝わることは７％程度。何を話すかも大切だが、状況や雰囲気で何を言うかも大切になる
⇒最後には、参加者それぞれが、「明日からやってみようと思うこと」を考え、チャットで交流しました。

【八十嶋　聡子　氏】

参加者の声

●見えない根っこの部分に目を向けること、子どものSOSサインに気付くようアンテナを張り巡らせることの大切さを改めて感じました。
●やる気を出すということは、シンプルながらとても難しいことだと思いました。今後は、アドバイスではなく相手とのコミュニケーションを通して決定していきたいと思いました。

【受講の様子】

○●○子どもの読書活動推進コーナー○●

道教委では、「北海道子どもの読書活動推進計画〈第五次計画〉」に基づき、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め積極的にその環境整備を図るとともに、障がいの有無に関わらず自発的な読書活動を行うことができるよう、読書活動の普及啓発を行うことを目的に、読書週間の11月３日、札幌駅前地下広場歩行空間（以下「チカホ」）でイベントを実施しました。

チカホで「北海道子どもの読書活動応援イベント」実施

開催日：令和5年11月3日（金・祝）10:00～15:00

社会教育課ホームページ

北海道青少年のための200冊等紹介コーナー

道内の６つのプロスポーツチームの協力で制作した「子どもの読書活動応援動画」で選手たちが紹介した本や、「青少年のための200冊」を紹介。動画は読書週間後も配信しますので、今後も御活用ください。各選手の紹介するPOPデータも当課ホームページからダウンロードできます。

「読み聞かせ子っ子の会」公演

普段はおもに石狩市民図書館を拠点にし、北海道子ども読書応援団にも登録されている「子っ子の会」のみなさんが、素敵な読み聞かせと音楽を披露してくださいました。絵本の読み聞かせでは、まだ小さなお子さんも、真剣に絵本の世界に引き込まれていたのがとても印象的でした。

プログラムの一例
大型絵本「にゃーご」、音楽「すうじのうた」、大型紙芝居「たべられたやまんば」等

バリアフリー資料の展示コーナー

全ての子どもたちが読書を楽しむことのできる「布の絵本」、「ＬＬブック」（難しい漢字や長い文がなく、写真や絵文字などが添えられた読みやすい本）、「点字絵本」、「ＤＡＩＳＹ（デイジー）」（デジタル録音図書）などを展示し、多くの方に手に取っていただきました。

高校生による「ビブリオバトル」

高校生たちが自分の好きな本を５分で紹介し、紹介された本の中で一番読みたくなった本を、会場に集まった審査員が投票する知的書評合戦・ビブリオバトルを開催しました。優勝したのは、東海大付属札幌高等学校２年の長倉未歩さんが真摯に紹介した『そういふものにわたしはなりたい』（櫻いいよ著　スターツ出版）でした。

缶バッジづくり体験 しおりづくり体験

読書週間にちなみオリジナルのしおりづくりや、缶バッジづくりの体験コーナーを設置しました。
子どもにも大人にも大人気でした。

道立図書館利用登録コーナー

いつでもどこからでもアクセス可能な「電子書籍」が、6,800点も利用できる道立図書館（江別市）の利用登録ができるコーナーを設けました。

多くの方の御協力・御来場ありがとうございました。今後も、地域の方々とともに、子どもがどこでも読書に親しめる環境づくりを進めていきましょう。

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『ＨＯＫＫＡＩＤＯ　ＬＯＶＥ！』」（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト　https://www.visit-hokkaido.jp/